

岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	現場研修会（トンネル研修）	（CPD 番号 23 -13 ）
主催	岩手県技術士会施工部会	
日時	平成 23 年 9 月 20 日（火） 13：30 ～ 15：30	
場所	気仙郡住田町付替国道津付 2 号トンネル	
参加人数等	9 人	

活 動 内 容

（対応者）

津付ダム建設事務所：佐々木総括主査、小岩主任

前田・長谷川 JV：松原所長ほか

- 1 事務所で津付ダム付替国道事業概要説明
- 2 切羽現場調査及び意見交換

- ・トンネルが短い割（L=224m）に C 種区間が長いということは、基本的に地山は良い、硬いということ。

- ・現場の切羽坑口から 5 m 地点で、既に硬い岩（泥岩と砂岩の互層）粘板岩が出現している。

- ・しかし、クラックの発達が著しく、層理に沿って赤茶けた粘土が介在することなどから、はく離性が高く、また剥落後は小さく砕けていた。

- ・現在、補助工法フォアポーリングを使い天端の保持とコンクリートの素吹きにより切羽を保持して、左右交互に重機により慎重に掘削施工していた。

3 感想

- ・トンネル設計における地山分類による支保パターンと切羽の安全を図る補助工法については分けて考える必要があるのではとの確信を強く持った。

- ・今後、こういった技術的所見について、受発注者両者が共通認識に立ち、設計変更に対する説明責任を全うすることの必要性を強く感じた。

《平井 記》



事業概要説明（佐々木主査）



全体事業概要



2号トンネル 坑口切羽



切羽詳細写真